

# 1000万円の既存事業を20億まで売上伸ばしてしまうコンテンツプロデュースという業界の話

【売れるコンテンツを作る力】

これって一つの視点だけだと極端に解釈されるかもしれない。

「動画とかのコンテンツに値札つけて、それで稼ぐだけでしょ？」

「no◎eとかBra◎nとかで売るやつでしょ？」

みたいに。

ただ、それは半分合っているが、半分は足りていない答えかなとも思っている。

ということか？

【売れるコンテンツを作る力】

が身につくということは

【売れるコンテンツをプロデュースする力】

も同時に身につけられるということ。

ここに気づけてない人が結構多いという印象。

名前を付けるとしたら、

”コンテンツプロデューサー”

になる。

このコンテンツプロデューサーという職業は

年間で1000万売れば良いなという事業も

彼ら彼女らがテコ入れをただけで

20億近くもの売り上げまで伸びてしまうのだ。

あとでもうちょっと詳しく書くが、

実話をもとにした映画とか、

AKBとかのアイドルグループも

コンテンツプロデューサーのお陰で成り立っていたり

コンテンツプロデューサーに大半のお金が流れていたりする。

このレポートでは、

「だからコンテンツを作る能力って大事なのか！」

と気づき、

個人規模で1000万とか売り上げることが

案外現実的なことだと気づけるかもしれないし、

ぜひコンテンツプロデューサーのスキルを

身に付けていただけたらと思ったのでまとめてみた。

一般的にマスメディアとか、表ではなかなか出て来ない裏の話、始めます—————。

一昔前に、Sむらごうちさんとか、Aらがきさんとかが話題になったのを覚えているだろうか。

「ゴーストライター」と話題になっていたあの話。

あれこそ、その氷山の一角であって

実際、出版の業界とかでは割と一般的に起こっているという話。

イメージしやすいように例を出すと、

【実話をもとに作られた映画】とかはその例。

なぜ映画化するのか？って

「コンテンツ化したら面白いだろうし、映画化したら興行収入が入るし一儲けできそう」

ってメディアの思惑が働くから成り立つものだったりする。

最近自分が見た映画だと

「アイ・トーニャ」

って映画があって、実在するアメリカのフィギュアスケーターの少女に起こった出来事をまとめた話。

これも、

プロデューサーが映画化の話をもちかけ

本人から同意を得たら映画というコンテンツにするみたいなイメージ。

つまり、コンテンツプロデューサーが、

【世の中でヒットして売れる見込みのあるものを、売れる形に編集して届ける】

という仕事をやっている例が

この映画実写化。

で……

本とか何冊も出している人でも

著者ではなく出版社が儲かっている。

年間で1000万売上がいいところなのに対して

コンテンツをプロデュースすることで

約20億にもものぼる金額を生み出しているという話を聞いた。

ここからはもっと黒い話。

出版社にプロデュースをもちかけられた

本の著者さんとかは印税でガッツリ儲かっていると思いきや、

本人に入るのはせいぜい10～数%で

出版社が9割もっていってしまう。

なぜか？

すばらしい経歴や技能、スキルはあるけれど、

どうやってそれを売ったらいいかわからないという人が大半だからである。

- ・ どうやってSNSを運営すればいいのか？
- ・ SNSでフォロワーを集めてもなぜか商品は売れない
- ・ かといって広告を打とうにもノウハウがわからない
- ・ どんな形で、どんな媒体で集客したらいいかわからな

い

・どんなコンテンツを作ればファン化するのか分からない

・どんな価格設定にすればいいのか、商品としての売り方がわからない

・どんな商品があれば買ってくれるのかがそもそも分からない

・どんな流れで販売していけば売り上げを出せるのかすらわからない

みたいな感じ。

どんなふうにもブログやメディアを触ったら

自分の価値を適切な形で売れるかがわからないので

結局プロの出版社に依頼する、みたいな業界の構造がある。

そういうわけで、

出版社と著者のパワーバランスは、

著者のほうが圧倒的に低いから

報酬の割合も 9 : 1 になるという事。

つまり、コンテンツプロデュースを通して

**【自分の技術や知識を、適切な形で市場に広めていく】**

ことができる技術は、相当に市場価値が高いので

絶対に持っておいたほうがいいと言える。

これは自分で起業をして

会社経営 4 年めの自分が

何がなんでも主張したいポイント。

コンテンツプロデュースという技術は

商品を販売できる力が身につくという事と同義。

めちゃくちゃ売り上げも上がるし、

私が実際に手掛けているコンテンツづくりの教材では

実質そういう状態になれるような学びを提供していたりもする。

- ・どんな風なコンテンツを作ればファン化するのか？
- ・どんな風な形で作っていけば一番学習効果が高まって
- ・どんな風に提供していけば成果が出やすいのか？

を教えているので、

**【売れるコンテンツを作る力】**

が身につくし、

**【売れるコンテンツをプロデュースする力】**

も同時に身につけられるようにしている。

実際、そのノウハウを使って

今までにも10万、100万、1000万の売り上げを

個人で1ヶ月に出してもらってきた経験もあるし

年々その技術を磨いてもいる。

そのお陰もあって、

東京の千代田区にある創業14年めのネット関係でカメラ収録のスタジオを運営している会社さんともご縁をいただけた。

この会社さんも、

コンテンツプロデュースの力を渴望されている。

なんでも、

会社にはお抱えのセミナーの講師がいるものの

その人達単体では集客をしたりファンを作れないので

個人の情報発信のブランディングを教えてもらいたいとの事だった。

ひよんな事でご縁をいただいたのだが

自分より歴長くビジネスをされている会社でも

こういう状況がある、ということだ。

「会社の看板を使えば仕事が回ってくるけど個人で情報発信をしてもうまくいっていない」

ようだった。

他にも、

- ・めちゃめちゃ品質の高い海釣り用のオモリを制作しているのに売り方がわからず困ってる金属加工会社

- ・おとぎ話の世界から飛び出してきたようなレンガ積み  
の壁をモルタルだけでリアルに再現できてしまう建設会社

といった会社さんとも関わったことがあるけれど、

共通して言われている悩みは

「ものは良いんだけど、売れない」

ということだった。

つまりコンテンツプロデュースの力がそこかしこで求められている、という事だ。

私の生徒さんでも

バドミントンの上達法について情報発信されていて

ツイッター経由でLINEの読者さんがどんどん増え

どんどんサービスが売れたり、

何だったらお客さんとアイデアを出し合って

新しいサービスすら作っていたりする。

これも、「コンテンツプロデュース」をする前とした後で

まったく状況が変わっているから本当に面白い。

あと、コンテンツプロデュースの能力が身につくと

別に自分名義の情報発信を必死こいて

頑張る必要もなくなってくるのも魅力だと思う。

つまり実質「ゴーストライター」になっちゃうような状況。

世の中で言ったらわかりやすいのは

AKBグループをプロデュースしている

秋元康さんもコンテンツプロデューサー。

NMBも

HKTも  
JKTも  
NGTも  
日向坂も  
乃木坂も  
欒坂も

ゼーんぶ秋元さんが仕切っていて

一度うまく行ったパターンで、それぞれのグループを  
いちばん適切な形でプロデュースされている。

自分がアイドルとなって歌って踊るわけでもなく

握手会でひたすら握手をするだけでなく

裏で総監督を取り仕切って

一番、時間もお金も得てしまえている。

その結果、もっと新しいアイドルのプロデュースもできる余裕も生まれるという良循環を生み出せている。

これがコンテンツプロデューサーの特権。

コンテンツの売り方も分かるし、

誰が何をすればどんな風に売れるかも全部知っているというわけだ。

飲食店のフランチャイズも全く一緒に、

これもコンテンツプロデュースの能力のある経営者が

各店舗でオーナーに代わりに店頭に立ってもらっているという構造。

そうそう。

Youtubeとかでも

10本投稿したら2万登録者とか行ってるチャンネルは間違いなくコンテンツプロデューサーが1枚噛んでいたりする。

- ・どんなキャラクターなら共感を生むか？
- ・どんなサムネにしたらクリック率が
- ・どんな動画を投稿したら視聴維持率が高いか？

ゴリッゴリにコンテンツプロデューサーが入っていたりする。

自分が表に出る必要がなくなるので

一気に並行して何件もできるようになる。

実際、私も色々な方のコンテンツプロデュースに付き合  
ってきて

どんどん成果を出していただいていた。

これからもやっていくし、

なんだったらぜひあなたにもこういう能力を身に付けて  
もらいたい。

表に出る人間よりも売り上がってしまうし、

もっと抽象度の高い世界で仕事ができる

クリエイティブで楽しいものだから。

コンテンツプロデュースの技術を身につけると、

他人の魅力を客観的にたくさんで引き出せる能力が身につく。

一人だけでは考えつかないようなことも

客観的にアドバイスして売上UPに貢献することもできる。

めちゃめちゃ喜ばれるし、感謝される。

ほんで売り上げもあがる。

ちなみに、情報社会のおかげで

ビジネス的な原価はほぼゼロなのも魅力的。

ありがたいことにYoutubeやツイッターなど

無料で使い放題なプラットフォームは沢山あるし

ブログも年間1万円ぐらいの固定費とかでできる。

メルマガも月に3000円ぐらいからできて

読者1万人になるうが固定費が上がることもない。

必要な経費は知識代ぐらいなので

昔のように商売を始めようと思ったら、絶対に

店舗や場所を借りなきゃいけないという縛りもなくなっているのが強い。

始めようと思ったらすぐ始められるし

やめようと思ったらすぐに手仕舞いできてしまう。

それだけ価値が高い仕事。

あと忙しくないというのもある。

テレビ局の人に話を聴くと

実業のプロデューサーは超忙しいそう。

ネットのコンテンツプロデューサーは

メルマガやLINEを使って自動化できるのも便利。

一度動画や文章を書いておけば

えんえんと提供され続けるというのも魅力。

- ・ なにもしなくても売れるようになるし
- ・ 頑張ったら頑張ったでもっと売れてしまう

こういう状況に持っていけるのは

かなり強い状況。

あと、必要のない人間に頭を下げる必要もない。

人間関係で社外や社内の板挟みの関係になって

業界のしきたりとかで自由に動けないとかも

ネット上だったら関係がない。

実力もないような人にいちいちヘコヘコしなくたっていい。

あとは、再現性がある。

自分以外の他人をプロデュースできるってことは

再現性のあるロジックをもっているということ。

たまたまじゃなく、必然で売れるようになるので  
いくらでも仕事をとれる。

自分が表に出なくてもいいし

表で出ている人以上に売り上げることだってできる。

なぜなら、再現性のある構成要素を

コンテンツプロデューサーなら知っているから。

たとえば

もともと野球がうまかった人の「野球をうまくなる方法」には再現性はない。

一方で、

ボールに触ることすら苦手だった人の「野球をうまくなる方法」には再現性がある。

どうすればうまくなれるかの要素を

試行錯誤しながら作っていくことができるからである。

もともとボールが苦手だったからこそ

- ・何をすれば上手にボールをキャッチできるのか？
- ・どうやって肩や腕を使えば遠くにボールが投げられるのか？
- ・どうやってバットを振ればボールに当てることができるのか？

というロジックを言語化できる。

コンテンツプロデュースも、

最初は難しいと思うかもしれないが

私も最初は「こんな事本当にできるの？」

って所からのスタートだった。

なんせ、読書感想文の宿題ですら

「シオリの色がキレイ」

「表紙のデザインがカッコいい」

とか、国語の先生にぶん殴られてもおかしくないような文章しか書けなかったのに

今ではここの文章のところまで

30分ほどで書くことができているから。笑

コンテンツをプロデュースする能力というのが

今後ますます重要視されると思う。

プロデュースする人間がいなかったら売れないし

出版社もコロナで力が弱まっている今、

個人でコンテンツプロデュースする力は小回りが効くし、小さい予算からマーケティングできるので強い。

そういう意味で、

価値を正しい形で、適切な形で適切に広める力というのはますます貴重価値が高まっていくと思う。

自分の実績がなくても、

他人の実績を編集して売り上げUPに貢献できる能力を身につけていこう。

外からの見え方は異なるけれど、

ほとんどの情報発信者が行き着く所は共通して

この「コンテンツプロデュース」だったりする。

最終的に身につけるべきスキルであるし

それだけ価値の高いスキルということでもある。

あとは、良くない例で言うと…。

コンテンツプロデュースの力を悪用して

良くない方向に使われることもある。

オリンピックでも中抜きが取りざたにされて問題になった「電通」。

「電通」は広告代理店だけれど、

やっていることはコンテンツプロデュースと一緒に。

「オリンピック」

というコンテンツをいかにして沢山の人にうまく広めるか？

というのを広告している企業だからである。

色々問題視はされているけれども、

それでも、儲かってしまっている人が存在しているのがこのコンテンツプロデュースというスキルである。

なのでぜひ正しい方向で使って、いろんな人を笑顔にしてみたい。

身近にもコンテンツをプロデュースできず

“ビジネスが順調に進まず”広告代理店に仕方なく高額なみかじめ料を支払っている”

みたいな状態ですら救うことのできるスキルなので

ぜひ身に付けていてもらえたらなと思う。

ということで、

コンテンツづくりの講座では

**【売れるコンテンツを作る力】**

を身に付けていてもらいつつ

**【売れるコンテンツをプロデュースする力】**

も同時に身につけられるようにしてあるので、ぜひコンテンツプロデュースの技術も磨いていてもらえたら嬉しい。

自分の能力がある人は正しく売れる形で発信してもらいたいし、

自分に能力がないと思っている方も、コンテンツプロデ

ユースの技術を身に付けて

感謝されながら売れるスキルを身に付けていこう。

→ <https://massy02.com/letter/hoken-program/>

まっしー より。